

平和を築くことの大切さ

県立八重山高等学校 二年

島尻 優楓

戦後七十年たった今も、様々な問題を抱えている沖縄。沖縄に住む私達は現実起こっているこれらの問題に真剣に向き合い平和の大切さを伝えていく責任があると思います。

私は、八重山平和祈念館で平和ガイドとして活動しています。平和ガイドとは、祈念館に訪れた観光客や修学旅行生に、八重山の戦争の歴史や平和の大切さを伝えるというものです。この平和ガイドを始めたことで、私は気づいたことがあります。それは、「平和」とは、私たちが築き上げていくものだということです。そして誰かがするのではなく、一人一人が考え行動することが大切だと思うようになりました。そう思うようになったのは、一人の体験者の方から話を聞いたからです。「当時六歳の私は、マラリアにかかった母を看病していました。ある日、母を仰向けの状態からうつ伏せに寝かせようとした時のことです。母の背中を見ると、床ずれしただれていました。そしてそのたれた背中にはウジ虫がびっしりとついていました。その数日後に母は亡くなってしまいました。」長い沈黙の後、必死で伝えてくれたのは七十年前の辛い記憶でした。その方の話を聞き、私は、鳥肌が立ちました。そして、戦争を起こさなために自分に何ができるのか、常に考えるようになりました。「二度と戦争を起こしてはならない」伝えてくれたこの言葉には想像を絶するような悲しみと辛さがあると感じました。

石垣島には、沖縄戦とは違った戦争がありました。戦争マラリアというものです。住民はマラリアの有病地帯と分かっているながらも軍の命令に逆らうことは許されず、強制的に避難させられたことで三千人以上の人が亡くなりました。私は、この島で起こった出来事、体験者の方の話をガイドする時には必ず伝えるようにしています。大阪から来た中学生の修学旅行生から「近い年齢なので話を聞いて身近に感じた」と言われたこともあり、少しは伝えることができているのかと嬉しく思いました。

また、昨年の夏に県の国際協力人材育成事業に参加し、ラオスに行きました。

ラオスでの経験は平和のために自分に何ができるか、深く考えるきっかけになりました。ラオスは、一人当たりの不発弾の投下率量が世界で一番多い国といわれています。不発弾被害者施設を訪れた時、たくさんの義足とそして片足のない女の子を目にしました。私は、とてもショックを受けました。どうしても、こんなに沢山の人が犠牲にならないといけないのだろうか、戦争は罪のない人々を苦しめる最低なものだと心の底から感じました。私の住む石垣島ではこれまでに二百四十件の不発弾が発見されています。戦後七十年を経過したというのに今年の四月に旧空港跡地から不発弾が発見、処理されていますが沖縄県全体では二万件以上も見つかっています。ラオスの不発弾の問題は、決して遠い国の問題ではなく、私たちの身近にもあることだと知りました。

私たちの世代は戦争を知りません。本当の戦争の恐ろしさも二度と起こしてはいけないという言葉の意味を分かっている人は少ないと思います。しかし、だからこそ知って、考えようとすることは必要ではないでしょうか。

最近、思うことがあります。もし、みんなが戦争体験者の方から話を聞いたするなど平和について考える機会があれば、戦争は絶対にしてはいけないと考えるのでは。そして二度と起こさない社会を作ろうと努力するのではないだろうか。自分の家族を殺して、大切な人を失う、人が異常になる。自分がこのような状況になったらと、置き換えて考えたら誰もが嫌だと思えます。戦争を起こしたのは人間ですが、二度と繰り返さないで「平和」を築いていくことができるのも人間です。

私は沖縄の高校生だからこそ、みんなで戦争の歴史を知り、平和の大切さを共に考えたいと思っています。私はガイドの活動をきっかけに小学校や中学校、高校で発表できるように、平和に関する原稿作りをしています。話すことで私のように考えてくれる人がいるかもしれません。一人の力は本当に小さいけれど、みんなで一緒に考えれば必ず未来も変わると信じています。

戦争は決して風化させてはいけないと思います。そのためには、私たちが語り継ぎ、忘れてはいけません。「平和を築く」そのために、今、自分にできることをしていきたいです。